

平成 30 年度 横須賀市立小・中学校学習状況調査の結果の概要について

平成 30 年 4 月 12 日（木）～20 日（金）に小学校 3～6 年生と中学校 1～3 年生を対象に「横須賀市立小・中学校学習状況調査」を実施しました。

横須賀市では、本調査について、限られた教科および学年での実施であることや、それぞれの問題が学習指導要領で定められている学習目標・内容の全てを網羅するものではないことから、調査結果が子どもの学力すべてを表すものではなく、学校の教育活動の一側面を示すものと考えています。しかし一側面ではあるものの、本調査結果を子どもたちの学習状況を客観的に把握するための資料の一つととらえ、今後の市の教育施策の充実や学校における子どもたちの個性や能力に応じた学習指導の改善のためにしっかりと役立てていきたいと考えています。また、子どもたちに「確かな学力」を育むためには、学校だけでなく家庭や地域のご協力が必要であります。そのためにも、子どもたちの学力や学習状況の現状を理解していただくとともに、学校教育活動にも積極的なご支援をいただくため、本市の状況及び課題について公表することとしましたので、ご理解いただきますようお願いいたします。



1. 調査の概略

(1) 調査の目的

横須賀市立小・中学校学習状況調査を実施し、横須賀市の児童生徒の学習状況を把握・分析し、その調査結果を各学校の指導方法の工夫・改善及び児童生徒の学習に役立て、横須賀市として必要な施策の策定に資することを目的としています。

(2) 調査内容

小学校 3 年生：①国語（聞き取り 有） ②算数

※各教科小学校 2 年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校 4 年生：①国語（聞き取り 有） ②社会 ③算数 ④理科

※各教科小学校 3 年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校 5 年生：①国語（聞き取り 有） ②社会 ③算数 ④理科

※各教科小学校 4 年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校 6 年生：①社会

※各教科小学校 5 年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校 1 年生：①国語（聞き取り 有） ②社会 ③数学 ④理科

※各教科小学校 6 年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校 2 年生：①国語（聞き取り 有） ②社会 ③数学 ④理科

⑤外国語（リスニング 有）

※各教科中学校 1 年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校 3 年生：①社会 ②外国語（リスニング 有）

※各教科中学校 2 年生までの履修内容を出題範囲としています。

(3) 公表について

・序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の結果については、公表いたしません。

2. 教科別結果の見方

各学年の教科別の結果については、「教科全体」及び「基礎」と「活用」の結果について示しています。また、横須賀市の結果と共に、調査全体の数値を載せています。

※調査全体について：

同じ問題を受検した全国の児童全体です。学年や教科によって異なりますが、母数は13万人から20万人となっています。

3. 横須賀市 小学校の教科別結果

横須賀市立小学校教科別平均正答率

小学校3年生

	国 語			算 数		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	70.3	74.6	53.4	68.4	73.5	43.0
調査全体	75.8	80.4	57.2	74.4	78.6	53.7

各学年・教科の全体的な傾向及び課題の見られる事項（小学校3年生）

【国語】

領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」については概ね良好な結果でした。特に「話すこと・聞くこと」については、多くの学校が、国語科の授業のみならず、学校全体で相手を意識した話し方や聞く姿勢を丁寧に指導している成果であるといえます。

漢字の読み書きについては、第2学年配当漢字を読むことは比較的良好な結果でしたが、漢字を書くことには課題がありました。特に、送り仮名も含めて書く問題に課題がありました。一度習得した漢字を、その後も繰り返し文や文章の中で使う場面を意図的に設定するなどの指導が必要であるといえます。

本市3年生の最大の課題は、「書くこと」にあります。

【算数】

「数と計算」領域では、計算問題について概ね良好な結果であり、数直線上に示された数の読み取りについて、状況が改善したこと等については、日頃の指導の成果と分析できます。一方、数の大小と不等号の意味の理解、具体的な場面を通しての加法の結合法則の理解に課題が見られます。また、「量と測定」領域の長さ・かさについてや、「図形」領域全般については、昨年度からの課題でしたが、今年度も改善が見られませんでした。

小学校4年生

	国 語			社 会		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	62.4	63.2	58.9	64.7	68.3	45.6
調査全体	69.6	70.8	64.5	67.5	70.4	50.6

	算 数			理 科		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	71.8	75.7	55.3	68.6	71.6	58.2
調査全体	76.4	79.5	63.0	73.1	76.2	62.5

各学年・教科の全体的な傾向及び課題の見られる事項（小学校4年生）

【国語】

領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」は比較的良好な結果でした。多くの学校が、国語科の授業のみならず、学校全体で相手を意識した話し方や聞く姿勢を丁寧に指導している成果であるといえます。しかし、「読むこと」のうち、説明文の内容を読み取ることには一部課題がありました。具体的には、「問い」の段落を探す問題です。「問い」は、説明的文章を読む際の基本的な学習用語となります。国語の教科書の後半には、「問い」以外にも、4年生で指導すべき「学習で使う言葉」の一覧があります。「読むこと」の指導においても、できるだけ学習用語を使いながら指導することが必要です。

また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と「書くこと」については、多くの課題が見られました。「漢字を書く」ことにおいては、今年度、正答率が低かった「湯」など、少し字形の複雑な漢字について、文字のつくりをよく確認しながら習得させることが必要です。

【社会】

全体的に調査全体を下回っています。特に、昨年度、調査全体を上回っていた活用において、今年度は5ポイント以上下回りました。また、観点別では、「社会的事象についての知識・理解」において、基礎的な用語・記号等の理解に課題が見られ、調査全体を大きく下回っている設問がありました。昨年度改善の見られた、記述問題に無解答が多い傾向や、後半の問題になるほど無解答率が高くなるといった課題が、今年度は見られました。

【算数】

計算問題については概ね良好な結果です。また、昨年度課題となった「文章問題を解くためのわり算の式を立てること」については、結果に改善が見られ、日頃の指導の成果と分析できます。一方で、「整数から小数第一位の数を引くひき算」では、調査全体を大きく下回っており、課題が見られます。また、「数直線上に示された分数を読み取る」問題や、「余りを切り上げて処理し、理由を説明する」問題については、昨年度も課題となる事項に挙げましたが、改善が見られませんでした。

【理科】

全ての領域で、調査全体を下回る結果でした。「風やゴムのはたらき」、「電気の通り道」は概ね調査全体と同等の結果です。しかし、「こん虫のからだのつくり」、「植物の育ち方」、「こん虫の育ち方」については、調査全体を大きく下回っています。学んだことを日常で見られる事象に当てはめて考えたり、活用したりすることにも課題が見られました。

小学校 5 年生

	国 語			社 会		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	67.8	72.3	47.2	57.5	59.2	50.6
調査全体	72.9	77.7	51.0	61.5	63.2	54.7

	算 数			理 科		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	59.6	62.9	47.5	64.9	68.8	51.1
調査全体	64.8	68.3	52.3	72.4	76.8	56.6

各学年・教科の全体的な傾向及び課題の見られる事項（小学校 5 年生）

【国語】

領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」では、話の中心に気を付けて聞き取ること、話し方の工夫に注意して聞き取ることが、良好な結果でした。また、「読むこと」では、物語の登場人物の気持ちを読み取ること、説明文の内容を的確に読み取ることなど、最も基本となる読み取りの力に良好な結果が出ています。

一方で、第 4 学年配当漢字の読み書きについて、読みはよい結果が出ているものの、書き取りには課題があることがわかりました。また、「書くこと」の作文における無解答率の高さについても今後の手立てが必要です。

【社会】

全体的に調査全体を下回っており、昨年度より差が広がっています。特に、昨年度は調査全体と同程度であった活用について、今年度は 4 ポイント程度下回る結果でした。観点別では、「社会的事象についての知識・理解」において、基礎的・基本的な内容の定着に課題が見られます。特に、「県の様子」領域では、47 都道府県の名称と位置、地図の活用について、調査全体を大きく下回っていました。また、資料を読み取ること、読み取った情報をもとに考えたり、表現したりすることにも課題が見られます。調査後半の問題の無解答率が高くなっていくなど、昨年度と同様の課題が見られました。

【算数】

小数のしくみの理解に関する問題、分数を数直線上に表す問題、180 度より大きい角の大きさを求める問題については概ね良好な結果であり、日頃の指導の成果と分析できます。しかし、全体を通して、調査全体を 5 ポイント以上、下回っている問題が半数を超え、全般的な課題が見られます。児童の学習の定着状況や課題点を十分に分析や把握をした上での、基礎的・基本的な知識および技能の確実な定着と、それらを活用する能力の育成を図る授業展開の工夫が求められます。

【理科】

多くの観点で、調査全体を下回る結果でしたが、「1 年間の植物の成長」、「水のすがた」や、「電気のはたらき」におけるソーラーカーや光電池の問題については、概ね調査全体と同等でした。しかし、「電気のはたらき」における回路のつなぎ方や「天気のようにすと気温」、「物のあたたまり方」の一部の問題については調査全体を大きく下回っています。特に、「自然事象についての知識・理解」の観点に課題が見られます。

小学校 6 年生

	社 会		
	教科全体	基礎	活用
横須賀市	58.7	60.1	54.0
調査全体	63.8	65.9	57.1

各学年・教科の全体的な傾向及び課題の見られる事項（小学校 6 年生）

【社会】

全体的には調査全体を下回っています。観点別では、「社会的事象についての知識・理解」について、調査全体を上回っているものと、大きく下回っているものが見られ、定着にばらつきが見られます。領域別では特に、「国土の自然などの様子」、「農業や水産業」に課題が見られます。ここ数年課題となっていた、記述問題に無解答が多い傾向や、後半の問題になるほど無解答率が高いなどの課題は、今年度も依然として課題となっています。

4. 横須賀市 中学校の教科別結果

横須賀市立中学校教科別平均正答率

中学校 1 年生

	国 語			社 会		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	57.6	59.9	49.4	51.7	52.0	50.1
調査全体	62.7	65.6	52.2	58.8	59.6	55.0

	数 学			理 科		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	66.9	68.4	60.8	50.1	51.8	45.8
調査全体	72.8	74.6	65.6	58.6	60.6	53.6

各学年・教科の全体的な傾向及び課題の見られる事項（中学校 1 年生）

【国語】

領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」および「読むこと」は比較的良好な結果でした。しかし、「話し方の工夫を捉えること」には一部課題がありました。これまで学んできた知識を確認しながら、「自分はどんな話し方の工夫ができていたか」、「次はもっとどんな工夫をしたいか」を生徒自身の言葉で引き出すことが大切です。

一方、「書くこと」と「小学校で学習した漢字の読み書き」には課題がありました。「書くこと」で出題された作文では、4 割近くの生徒が無解答で、これは大きな課題であるといえます。

【社会】

全体的に調査全体を下回っている中、特に、基礎が調査全体を大幅に下回っており、課題があります。領域別では、「我が国の歴史」、「我が国の政治」、「世界の中の日本」の全ての領域で、調査全体を下回っています。解答形式別では、短答問題や記述問題では無解答率が高くなるなどの課題が見られました。

【数学】

「割合が同じでも、もとにする量がわからないと人数を比較することはできない」ことを説明する問題では、調査全体をともに上回る結果となり、今後の授業において、見方・考え方を働かせながら、思考力・判断力・表現力等をさらに高めていくことが可能な状態であると分析できます。一方で、この問題を除く他の全ての問題で調査全体を下回る結果となり、基礎的・基本的な事項の定着については、全般的な課題が見られました。

【理科】

今年度は、どの観点においても、調査全体を下回りました。中でも「観察・実験の技能」、「自然事象についての知識・理解」の観点については、課題が見られました。「動物のからだのつくりとはたらき」の循環に関する内容は、調査全体と同程度でしたが、「電気の利用」、「動物のからだのつくりとはたらき」の消化と吸収に関する内容、「水よう液の性質」では調査全体を大きく下回る結果でした。

横須賀市立中学校教科別平均正答率

中学校 2 年生

	国 語			社 会			数 学		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	63.7	66.4	53.9	48.1	48.7	45.2	57.9	60.4	45.7
調査全体	64.2	67.1	53.3	52.2	53.5	46.6	58.1	60.6	46.0

	理 科			外 国 語		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	47.9	53.9	33.5	53.8	55.7	48.9
調査全体	53.7	60.2	38.0	51.6	54.0	45.5

各学年・教科の全体的な傾向及び課題の見られる事項（中学校 2 年生）

【国語】

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、調査全体を上回るか、ほぼ同等の成果が出ています。各学校での日頃の指導の成果といえます。

しかし、「書くこと」においては、調査全体は上回ったものの、作文で約 3 割の生徒が無解答だったことに対しては、今後も手立てが必要です。今年度は、「グラフから読み取ったことを根拠として、自分の考えを書く」という課題でした。これは、国語科のみならず、全ての教科の授業で取り組むことが可能です。書くことが苦手な生徒を固定化させないように、考えたことについて書くことを日常化、習慣化する取組が必要です。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、一部基礎的な問題に課題がありました。

【社会】

全体的に調査全体を下回っており、課題がありますが、活用については昨年度よりも大幅に上昇しています。領域では「世界の地域構成」、「中世の日本」で調査全体を大きく下回っています。解答形式別では、短答問題や記述問題で誤答率や無解答率が高くなるなどの課題が見られました。

【数学】

全部で 35 問の小問のうち、調査全体を上回った問題が 15 問という結果となり、特に「1 次式の減法」や「線分の中点の作図」については、調査全体を 5 ポイント以上上回りました。また、全体を通して、領域別の「資料の活用」を除いては、ほぼ調査全体並みという結果となりました。また、昨年度の課題であった「関数」領域や「資料の活用」領域で、調査全体を大きく下回る問題が減ったという点でも、日頃の指導の成果であると分析できます。

【理科】

各観点において、調査全体と比べて正答率が下回りました。活用の問題に比べ、基礎的な問題で調査全体との差が開いており、基礎・基本の内容の定着に課題があることがわかります。「身のまわりの物質とその性質」、「火山」などの一部の問題では、調査全体にせまる結果が見られました。しかし、「地層」、「植物の分類」、「気体の性質」の内容では、調査全体との差が大きく、課題が見られる結果でした。

中学校 2 年生

各学年・教科の全体的な傾向及び課題の見られる事項（中学校 2 年生）

【外国語】

「聞くこと」に関し、英語を聞き取ることについては概ね良好な結果です。聞いたことの要点を捉えて理解することができています。一方で、対話の内容を聞き取って適切に応答することに課題があります。

「読むこと」については、対話の流れを理解し適切な時制の動詞を選ぶなど、内容に合うように語形・語法を選ぶことに課題が見られます。また、読み取った内容が具体的に何を指すのかを理解することに課題が見られます。

「書くこと」については、テーマに応じて文のつながりや構成を考えながら、まとまった内容の英文を主体的かつ積極的に表現しようとする姿が見られます。その一方で、場面を捉えて応答するような対話の流れに沿った英作文を書くことについては無解答率が他の問題に比べて高いなど、理解が深まっていない様子が見られます。

横須賀市立中学校教科別平均正答率

中学校 3 年生

	社 会			外 国 語		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	55.9	56.4	52.9	61.2	67.3	45.9
調査全体	56.7	57.9	50.6	58.9	65.3	43.1

各学年・教科の全体的な傾向及び課題の見られる事項（中学校 3 年生）

【社会】

全体的に調査全体とほぼ同程度で、概ね良好な結果でした。基礎に関しては、調査全体と 1 ポイント程度しか差が見られず、活用に関しては、調査全体を上回っています。領域別では「日本の地域構成」、「世界と比べた日本の地域的特色」、「近代の日本と世界」で調査全体を下回っています。解答形式別では、短答問題や記述問題で誤答率や無解答率が高くなるなどの課題が見られました。

【外国語】

「聞くこと」に関して、英語を聞き取ることについては概ね良好な結果ですが、「していないこと」を答えるような要点を聞き取る問題に課題があります。「読むこと」についても、概ね良好な結果です。「書くこと」に関して、まとまった内容の英文を書くことについて、その結果から意欲的に表現しようとする姿が見られます。自分の意見や気持ちなどについて条件をしっかりと捉えながら適切に表現することができています。その一方で、場面に応じて質問する文を書くことについては、課題が見られます。その場面で何が話題の中心になっているかなどについて理解を深めることが重要です。

5. 今後の取組について

各学校では、本学習状況調査の結果をもとに、成果と課題を分析し、課題の改善に向けた取組を行っています。教育委員会では、各学校の取組に指導助言を行い、子どもたちの学力向上に向けた支援をしています。

また、これまでの全国学力・学習状況調査や横須賀市の学習状況調査の結果の分析から、子どもたちの学力向上には、家庭学習の取組等、学習習慣の定着とともに、基本的な生活習慣や家族とのコミュニケーションも大きく影響があることがわかってきています。そのためには、学校と家庭が連携して取り組んでいくことが必要であると考えます。

教育委員会では子どもたちの確かな学力を育成する上で、平成 30 年度から 4 年計画で策定した学力向上推進プランをもとに、学力向上に向けた学校、家庭、教育委員会の主たる取組を次のように定め、学校と連携・協力して進めていきます。

＜学校での取組＞

◎学校が取り組むべき 3 つの提言

- ①学力向上に向けた課題解決のために、教育課程を編成し、組織的に取り組みます。
- ②指導力の向上を図るために、校内研究を充実させます。
- ③学習内容を定着させるために、目標と指導と評価が一体となった授業づくりを行います。

＜家庭での取組＞

- ・学習習慣をはぐくむ学習環境づくり
- ・家庭学習啓発リーフレット等を活用した学習習慣の確立
- ・学校の取組と連携した取組（生活習慣の改善等）

＜教育委員会の取組＞

- ・各学校の計画する学校重点プランへの指導助言
- ・本学習状況調査の結果等を踏まえた各学校への指導助言
- ・子どもの学力向上を支援する取組（学力向上サポートティーチャーの派遣、3 年生 35 人以下学級実現のための非常勤講師の配置等）
- ・学校と家庭の連携の推進（家庭学習啓発リーフレットの配布等）



